

いろいろあるね、しあわせの形

実践場所	徳島県	徳島市城東小学校	実践者	森本 美緒
対 象	小学校3年生		時間数	2時間
担当教科	小学校全科	実践教科	総合的な学習の時間	
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・世界には多様な文化があることを知る。 ・家族や周りとの力を合わせ生きるエチオピア人の暮らしから自分の生活を見つめ直す。 ・世界中に住む人々のために、今自分になにができるか考える。 			
実践内容	回	プログラム		備 考
	1	【エチオピア共和国について知る】 <ul style="list-style-type: none"> ・エチオピアの場所を知る。 ・クイズを通してエチオピアの文化を知る。 ・エチオピアの食文化を体験する。 ・農家の写真から人間の本当の幸せとは何か話し合う。 		○スライド ○ワークシート ○写真 ハンガー・フリー・ワールド 「世界食料デー」月間 2014-みんなで食べる幸せを-
	2	【私たちにできることは何か考えよう】 <ul style="list-style-type: none"> ・写真からエチオピアの国や文化、人々の生活(学校や慣習日常生活)を想像する。 〈フォトランゲージ〉 ・グラフやデータを通してエチオピアの食糧事情、学校教育の実態を知る。 〈グラフ分析〉 ・写真から JICA のカイゼンプロジェクトについて話し合う。 〈フォトランゲージ〉 ・世界中に住む人々のために、今自分になにができるか考える。 〈感想シート〉 		
成 果	<p>家族で力を合わせて生活を営み、国の繁栄を目指し、懸命に生きる人々の姿から、人と人のつながりの素晴らしさを見直すことができた。そして自分だけではなく世界の人々が幸せになるにはどうしたらよいか考えるきっかけをもつことができた。</p>			
課 題	<p>乾燥インジェラ試食で不慣れな味にはき出してしまった児童がいた。すぐ口を濯いで事なきを得たが近頃は給食でもアレルギーのため制限食をとる児童がいる。五感を重視した授業を心がけたのだが改めて試食には最大限の配慮を要するという事を再確認した。</p>			
備 考	<p>現在長期社会体験研修生として現職を離れ、徳島県国際交流協会に勤めている。そのため授業は在籍校の城東小学校で行なった。来年度に同小学校復帰を予定しているので、引き続き様々な取り組みを通し、子どもたちのグローバルな見識を深めていきたい。</p>			

[授業実践の詳細]

1 時限目 「いろいろあるね、しあわせの形[多文化理解]」

1 子どもの活動の流れ

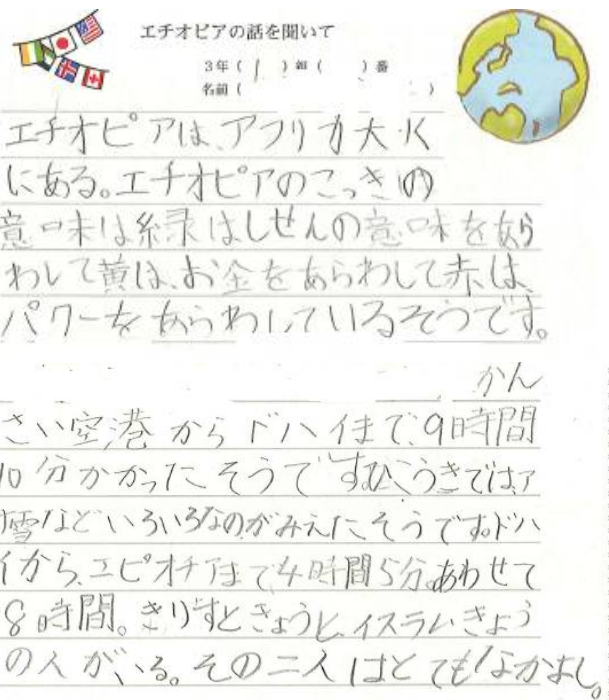
- ① エチオピアの場所確認・・・地図上で日本の位置とエチオピアの位置を確認して、どれくらい離れているか実感させた。
- ② エチオピアクイズ・・・エチオピアを知る教材である。クイズの内容は、乗り物、食べ物、文化(歌や踊り、行事)、学校生活などをあげた。
- ③ コーヒーセレモニーの進め方の説明、乾燥インジェラの試食を通してエチオピアの食文化を紹介した。
- ④ 家族でもてなすコーヒーセレモニーの写真を見せ、家族がお互いを必要とする生き方に幸せを見いだすエチオピア人の姿から、人と人のつながりを大事にしなければ、例え水や食料など物質面で恵まれていても、幸せであるとは言いきれないということに気づかせるようにした。

この時限のねらい

エチオピア共和国に対する興味・関心を深め、家族が役割を分担し、協力して暮らす人々の姿から、自分と家族のつながりを見つめ直す。

2 子どもの活動の成果・反応

- ◇「エチオピアはアフリカ大陸にある。」「1万キロで18時間かかる。」というふうにエチオピアがどこにあるか、どれだけ遠いか実感できた。
- ◇「エチオピアの歌って日本の与作っていう演歌に似ているんだね。」というように、ゆったりとしたテンポで歌われる歌は子どもたちにエチオピアに対する親しみを持たせた。
- ◇「こんなに酸っぱいインジェラだけど、栄養があって体によい食べ物なんだね。」と子どもたちは今まで食べたことのない味覚に驚きながらも、育てやすいテフから作られたナンのような食べ物に強い関心を示した。
- ◇「この国の子どもたちはよくお手伝いをしているね。」「力を合わせて生きてるんだね。」と、自分の生活と照らし合わせて、子どもたちの生活について考えようとしていた。
- ◇「みんなお互いを見て笑っているよ。」「仲いいんだね。」と日本と比べて水不足や食糧供給が大変なのに関わらず懸命に生きている人々の姿に感銘を受けていた。



3 使用した教材

<教材1>



<教材2>



答え ホロホロ鳥の置物 幸福のシンボル



<教材3>



答え かの有名なインジェラ♡



<教材4>



2

時限目「世界みんなが幸せになるために【多文化共生・国際協力】」

1 子どもの活動の流れ

- ① 〈フोटランゲージ〉写真からエチオピアの国や文化、人々の生活(学校や慣習、日常生活)を想像させた。
- ② グラフやデータを通してエチオピアの食糧事情、学校教育の実態をみせた。
- ③ 国を豊かにするために JICA のカイゼンプロジェクトを通し、製造効率を高めたり、質のよい製品を生み出すために努力していることに気づかせた。
- ④ 家族で力を合わせて生活を営み、カイゼンプロジェクトを通し JICA の協力を得て国を豊かに暮らすために尽力するエチオピアの人々の姿から、人と人のつながりのすばらしさを再確認させるとともに、世界中に住む人々のために今自分に何ができるか考えた。

この時限のねらい

家族や周りの人々と力を合わせてよい国にしていこうとするエチオピアの人の素晴らしさを知り、世界の中の一人として、今自分になにができるか考える。

2 子どもの活動の成果・反応

- ◇「大昔から人が住んでいたんだね。」「古い歴史の国なんだね。」というように強い関心を向けていた。
- ◇「食べ物を大事にしないといけないね。」「実験の道具をペットボトルから作っているんだね。」「うちの仕事のお手伝いをして学校に行けない子がいるんだね。」と自分の生活に立ち返り、考えられていた。
- ◇「やってるふりじゃなく一生懸命するようにしようって、ぼくよく言われるよ。」「とてもしつぱな靴をつくっているね。」というつぶやきがみられた。
- ◇「食べ物をのこさないようにしよう。」「電気を大切にしよう。」「ユニセフなんか募金しよう。」「鉛筆をアフリカに送ろうよ。」とまず自分にできることから、始めていこうとする姿勢が見られた。

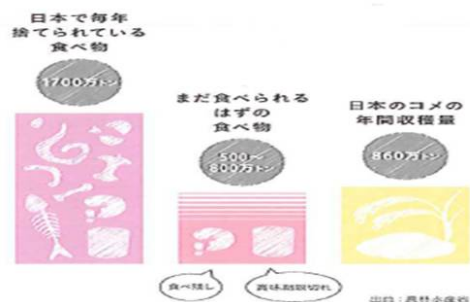
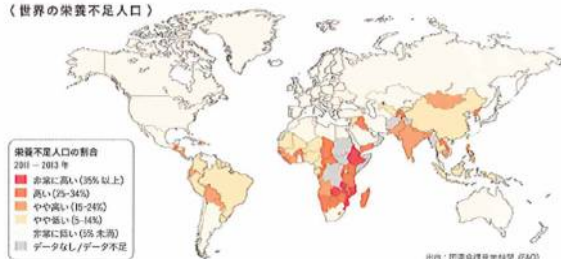
3 使用した教材

<教材5>



<教材6>

(世界の栄養不足人口)



<教材7>



■ 全体を通して

1 授業の様子



写真1: エチオピアの地図



写真2: アディスアベバの町の様子



写真3: メモをとる子どもたち

2 参考文献・資料

- 1)(特活)ハンガー・フリー・ワールド みんなで食べる幸せを <http://www.worldfoodday-japan.net/>
(教材6)